ご挨拶

YNU経済学部教育後援会

会長 宇佐見光邦

YNU経済学部教育後援会の皆様、日頃より当後援会活動にご理解・ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当後援会では、昨年、既設や学校などYNUのキャリア教育の一環を兼ねてのリニューアルを実施しました。自宅を離れて生活している学生の中には、保護者の皆様のご不安を募じる学生が含まれていることから、このリニューアルを兼ねてのリニューアルを実施することにしました。当後援会では、日頃よりご理解・ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、改版版のリニューアルにあたり、キャリア支援の枠組みを、卒業生が構成する「富丘会」のキャリアドバイザーからのメッセージ、学校における効果を確認することにご期待いただき、本年度も改版・発行をご検討いただき、卒業生の皆様にご参考になる内容で何卒よろしくお願い申し上げます。

経済学部教育後援会と申しますが、今後も皆様の皆様のご理解に応えることをモットーに活動を進めて参ります。引き続きご支援いただきますようお願い申し上げます。

特別理事（経済学部）
浦澤英一

保護者の皆様におかれましては、ご自身のご健康のご利益をお願い申し上げます。

この経済学部では保護者の皆様が想起してほしい、経済学部で実施しているキャリア教育の一環を紹介したリニューアルを実施いたしました。保護者の皆様は経済学部生の学習や就職に特に関心をお持ちのことと思います。お分かりのように、YNU経済学部教育後援会のご支援をいただき、海外成功大学への短期派遣留学や経済学部独自の海外およびアジア語学講座での活動が充実しています。就職活動を含めたキャリア教育に取り組むためには、卒業生やキャリア支援中心としてさまざまなキャリアドバイザー制度が採用されている。さらに、就職活動を含めたキャリア教育の一環として各種の講座を企画し、講演者の方々を招いて講義を行います。講演を行い、卒業生である皆様にご参加いただき、卒業生としての経験を共有する機会を提供するものであり、卒業生にご参加いただき、卒業生としての経験を共有する機会を提供するものであることを希望申し上げます。講義を行い、卒業生としての経験を共有する機会を提供するものであることを希望申し上げます。

前節で述べたように、講座はキャリアドバイザー制度を基礎にして、講義を行い、卒業生としての経験を共有する機会を提供するものであることを希望申し上げます。講義を行い、卒業生としての経験を共有する機会を提供するものであることを希望申し上げます。
発展途上国財務省若手幹部育成の大学院プログラムの
刺激を学部学生に与える

経済学部教授 山崎圭一

本経済学部（本学大学院経済系）では、世界銀行とパートナーシップ契約を結び、1996年から発展途上国の財務省などに租税収入を
中心としての若手幹部育成を対象とする修士課程を運営してきました。各国の優秀な社会人を招收到し、すべての授業、修士論文
指導、フィールドトリップ（研修旅行）、日常生活支援を英語で実施してきました。このような、世界銀行と契約したような特別な修
士課程（MEP）を受けているのは、米国のコンホビニア大学、ハーバード大学、日本の慶應義塾大学、筑波大学、GPRIS（政策研究大
学）など、全世界でも数大学に限られています。

経済学的には、「学生が交流ラウンジがあり、パートナーを通じて、学部英語講義や都市経済論文会に参加した学部学生とMEP
留学生との間で積極的な交流が行われています。このような交流の場を通じて、大学院での教育と研究の成果や刺激を学部生に与える
ことを想定しています。

学生を「国際化」の努力の余地も示し出されており、英語での就職
説明会で、ワシントンからきた講師に次々と英語で質問をあびる状
況を平日（1月20日）に経験しました。これは米開発銀行（DBE:
Inter-American Development Bank）への就職やマネー・インターナーシ
ップの機会を説明する為で、米国からのワシントン本部から担当者2
人が来日されて、英語で2時間の説明が行われました。5～6年前で
と、私たち教授は若千英語で説明し、また「GARP日本在日」と
ように、教授が通訳しますと、いわく、「英語ができないという
状況でした。今回このような通訳が必要で、学生と講師の間に自由な英
語での質疑応答が展開していました。質問内容は専門で、講師である
開発本部人事担当者は「過去の日本の学生のイメージ」という
感想を述べておられました。注、米開発銀行は、世界銀行の妹妹機
関の1つで、日本を含む学生であるため、日本の職員、幹部も求める
ている。

学部教育の課題としては、むろん国際化、英語力の向上だけではあ
まりません。大学教育の問題を明らかに知ることとして、「最低の
若き学士はお酒も飲まず、全くに集まり、大事な препареとの保持
でスキル・ソーシャルを理解、して心得て」と頼まれておりました。「若
手幹部の間でない型【不】の増加に悩んでいる」とも聞かれてあります。

ビジネス界が大学に期待している教育は、経済学や英語力だけはな
く、様々な人間力の向上であると、個人的には感じています。学
校教育法の第83条第1項、『大学は、学術の中心として、広く知
識を授与するとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知識、道徳的及
び応用的力を発展させることを目的とする』とあります。「道徳的
及び応用的力」とある部分が、おそらく経済学や外国語以外の、総
合的な人間力を意味するかと、思います。

（下記：米開発銀行試験セミナーの揭示用案内）
（下記：2012年11月20日の米開発銀行試験セミナーの様子）

「インターネット参観授業の成果報告」

経済学部経済システム学科 3年生 A 君

インターネットに参加するにあたり、その理由・目的については
3つありました。

1つ目は、学習と志望している金融業界の具体的な業務内容によ
って知りたい、職場の空気を知りたいという心理学的からインターネット
授業は四季転換や問診、新聞紙からでは収集できない実験
としての生の情報を収集するには絶好の機会であり、これに参加動機
として最も大きかったものです。2つ目は、意識改善の目的のありま
す。インターネットという形で就職活動を始めることによって、
働くことや社会に出ることに対しより早急に意識を向けることができ
ると期待しました。3つ目は、他大学などの参加者が交流を通じて
就職活動を共に乗り越える仲間をつくるという目的もありました。
インターネット授業では、学生同士のグループワークを実施し、社会が
多く、受け入れ大学を多く持つため、今後の就職活動を共に乗り越
える仲間をつくることに意欲を高め、また、今後の就職活動の参考と
する目的から参加しました。

いちばしクルスットマニ、E曲目経済学部."三
井住友海上火災保険会社"の2社のインターネット授業に参加しま
した。

いちばしクルスットマニ、E曲目経済学部."三
井住友海上火災保険会社"の2社のインターネット授業に参加しま
した。

いちばしクルスットマニ、E曲目経済学部."三
井住友海上火災保険会社"の2社のインターネット授業に参加しま
した。

いちばしクルスットマニ、E曲目経済学部."三
井住友海上火災保険会社"の2社のインターネット授業に参加しま
した。

いちばしクルスットマニ、E曲目経済学部."三
井住友海上火災保険会社"の2社のインターネット授業に参加しま
した。